

# あたらしくはいった本 (令和2年5月 貸出開始資料から)

- 小説 法の雨(下村敦史/著) 濱地健三郎の幽たる事件簿(有栖川有栖/著) 逆ソクラテス(伊坂幸太郎/著) 駆け入りの寺(澤田瞳子/著) 恋愛未満(篠田節子/著) スノードロップ(島田雅彦/著) イエロー・サブマリン(小路幸也/著) 銀花の蔵(遠田潤子/著) 四神の旗(馳星周/著) 江戸の夢びらき(松井今朝子/著) 告解(薬丸岳/著) 永遠の夏をあとに(雪乃紗衣/著) オルガ(ベルンハルト・シュリンク/著) あの本は読まれているか(ラーラ・プレスコット/著)
- 随筆・詩などの文学 猫を棄てる(村上春樹/著) 道行きや(伊藤比呂美/著) サガレン(梯久美子/著) 旅のつばくろ(沢木耕太郎/著) コロナの時代の僕ら(パオロ・ジョルダーノ/著)
- その他の本 検証財界(読売新聞経済部/著) ふきげんな子どもの育て方(湯汲英史/著) 1000円以下でできるオーガニック菜園(原由紀子/監修) 一般論はもういいので、私の老後のお金「答え」をください！(井戸美枝/著) 老いの器量(下重暁子/著)



『永遠の夏をあとに』  
雪乃紗衣 著  
東京創元社



『道行きや』  
伊藤比呂美 著  
新潮社



『濱地健三郎の幽たる事件簿』  
有栖川有栖 著  
KADOKAWA

## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

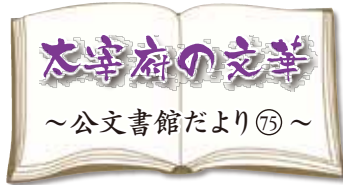
令和2年	日	月	火	水	木	金	土
7					1	2	3
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

## 中原親能は鎮西奉行だったか

中原親能は京都の公家出身でありながら、源頼朝の挙兵時に京都から鎌倉に下り、側近として初期鎌倉幕府の政權中枢を担った人物です。鎮西奉行は幕府の九州統治のための出先機関で、同じく頼朝の側近であった天野遠景を初代とします。鎮西奉行の評価には諸説あり、遠景の後任として親能を認めるかどうか争点の一つになっています。



大友郷を本拠とし、能直のときに豊後・筑後守護に任じられたとされます。蒙古襲来時には親能の孫頼泰が、実戦の総指揮者として、戦後には勲功認定・恩賞配分などで武藤氏とともに九州御家人の中心的な役割を果たしました。

この頼泰のことを「東方奉行所」「東方守護所」と記す史料があります。また、武藤資能に比定される「西方守護人」「太宰府西守護所」という表記を含む史料も残ります。

遠景を解任し、その代わりに親能を鎮西奉行に補任したことを示すのが、建久6(1195)年5月日付將軍家政所下文案です。しかしこの文書は使用されている文言、形式から偽文書であることが明らかで、これを信憑性のないものと切り捨てるか、偽文書ではあるものの内容には否定しがたい事実があると考えるかで、まず理解が異なります。

鎮西奉行の定義や時期により果たした役割の違いなどはありますが、確かに、武藤氏と大友氏は鎌倉期の九州御家人の中で優位な存在であり(広報令和2年1月1日号参照)、その淵源を両氏の鎮西奉行就任に求める説は、説得力を持つものと考えます。

さらに、親能は鎮西奉行に任じられた建久6年当時、九州に下向せず京都にいました。頼朝の直接の指示を受け、九州現地にあって全域に権限行使した、遠景の軍事的性格とはかなり異なるため、鎮西奉行としての連続性を疑問視する見方があります。

一方、親能は豊後大友氏の初代能直を養子としています。大友氏は相模国

(公文書館・朱雀 信城)